

農業者(農業団体等)について			
氏名 (法人名)		従事者数 (従業員数)	
代表者名		担当者名	
所在地	〒	TEL	
		FAX	
E-mail			
施設外就労受入(福祉事業所)への委託実績	有 / 無		
希望する作業内容及び場所等について			
作物名		作業の時期	
作業内容			
作業の場所			
トイレ、駐車場、休憩所	トイレ(有 無) / 駐車場(有 無) / 休憩所(有 無)		
その他、特記事項			

お問い合わせ先 熊本県 障がい者支援課 社会参加班 農福連携コーディネーター
〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 Tel.096-333-2235

農福連携の取組みを支援する事業



農山漁村振興交付金

農福連携を実施する場となる生産施設の整備にかかる経費の1/2を助成しています。具体的には、ハウス等の生産施設、加工販売施設のほか、障がい者が農業生産活動に従事する際に必要となる休憩所、トイレ等の整備に活用できます。

詳しくは、農林水産省HPをご覧くださいか、九州農政局(096-211-9111)へお問い合わせください。

未来につなぐふるさと応援事業(農○連携事業)

福祉と連携した農業活動等について、1件あたり上限500千円の活動支援を行なっています。毎年4月頃に募集を行います。

詳しくは、HP「くまもとふるさと応援ねっと」
をご覧くださいか、熊本県むらづくり課(096-333-2415)へお問い合わせください。



!! はじめてみませんか? !!

農福 連携

障がいのある方の受入れをお考えの
農業者の方々への【Q&Aガイド】

農業

人材不足の解消や
労働環境の改善に
つながる可能性が!



福祉

働く場や収入確保によって
社会参加や交流を!

熊本県むらづくり課



農福連携って何?

Q&Aガイド



障がい者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組みです。

県では農業と福祉が連携し、障がい者や高齢者が農業の現場で活躍する機会を増やし、農業分野の実際の課題である人材不足の解消や、労働環境の改善に繋げる取組みを進めています。

Q1
どんな作業をお願いできるのでしょうか?

A ひとりひとりの能力によってできる仕事は違います。作業を分業化することで、様々な作業を行うことができます。

もちろん、作業になれるまでに時間がかかることもあります。一旦習得すれば丁寧な仕事ぶりで喜ばれる例もあります。
(作業の一例) 障がいの特性に応じた対応が必要ですが、作業を単純作業に分業化することで、播種・移植・定植、間引き、マルチング、草取り、かん水、収穫、出荷調整、畑や施設の片付け(清掃)等、多岐に渡る仕事を依頼することが可能です。

Q2 作業報酬(委託料)や作業内容、時間、事故があった時等の取り決めは?

A 施設外就労の場合、報酬金額等は福祉事業所との話し合いにより決められます。

作業への対価として労働に見合う金額をお支払いいただく必要がありますが、障害のある人も責任をもち、正確で丁寧な作業を心掛けて働いています。なお作業中の事故については福祉事業所が保障等の対応を行います。

Q3 メリットは?

A 農福連携に取り組んでいる農業者からはこんな声!

- 収穫後の袋詰め等、自分たちで行っていた作業を任せることで野菜の栽培に専念できる時間が増え、結果的にロスが減って出荷量が多くなった。
- 障がいのある人にも分かりやすいよう作業場所に様々な工夫を施すことで、全体の作業効率が向上した。

A 農業者が農福連携に取り組むパターンは、一般的に以下の2つです。取組みの経験がない方には、まずは②のパターンから始めてみては!

① 直接就労型

農業者が障がい者を正社員やパートとして直接雇用します。障がい者への対応についてある程度の知識・経験や理解が必要です。

② 連携型

農業者と福祉事業所が農作業の請負契約を結び、農作業を委託する形です。

Q5 連携型に取り組む場合、障がい者への農作業の説明や指導は誰が行うのですか?

A 障がい者への農作業の指導や管理は、契約した福祉事業所職員が同行し行います。

連携型の場合、障がい者の農作業には必ず福祉事業所職員が同行します。そのため農家の方は障がい者に直接、作業指示は行いません。福祉事業所職員に対してのみ指示・依頼していただくことになります。



Point

障がい者の施設外就労には、自立するための就労訓練としての側面もあり、各個人の能力には個人差があることを理解しておきましょう。

Q6 農作業をお願いしたいけど、どこに相談すればいいの?

A 熊本県では、障がい者支援課に「農福連携コーディネーター」を配置し、福祉事業所と農業者のマッチング支援を行っています。

作業場までの距離や時期等の条件が合う福祉事業所があれば、熊本県の農福連携コーディネーターがご紹介いたします。農福連携の取組みを希望される際は、**まずはお電話(096-333-2235)のうえ、このパンフレット裏面のマッチングシートをFAXなどでお送りください!**



Q7 まずはお試して農作業をお願いできますか?

A 農業者と福祉事業所双方が納得の上、作業できるよう1~3回程度のお試し期間を設けます。

オクラ、トマトの選別と箱詰め作業を依頼。皆さんのいきいきとした表情で社内ムードも良くなりました!

株式会社Sora(熊本県八代市鏡町)

当社はグループ会社で生産したトマト、オクラ、キャベツ、レタスなどの農産物を八代の選果場に集め全国の市場や契約企業(モスバーガー等)へ出荷しています。もともと社会貢献活動は企業理念の重要な柱でもあり、働き手の確保という点でもメリットがありましたのでスムーズに農福連携へ取り組むことができました。作業は、夏場のオクラの選別をお願いしました。初めての経験で不安要素もありましたが、**福祉事業所スタッフのリーダーさんが作業の方との間を全てコーディネートしてくださって、初めての連携でも安心して取り組むことができました。**

(お話し/株式会社Sora 総務 上村 駿太郎さん)



オクラの選別作業は決められたサイズに仕分けして箱詰めされます



モスバーガー等にも納品されます 上村 駿太郎さん

助かってます!
農福連携事例1

農福連携に取り組んでよかったです!

農業仲間からの紹介で農福連携をスタート。人手が要るキュウリの収穫作業で本当に助かっています!

徳永農園(熊本市北区硯川町)

約2年前、父が体調を崩し農作業ができなくなり、自分たち夫婦と母の3人で一年を通じてキュウリのハウス栽培をしています。常に労働力不足の状態でした。そんな時、農福連携という取組みがあることを聞き、早速、**県の農福連携コーディネーターさんに相談したところ、作業内容に合った福祉事業所を紹介いただき**、以来、キュウリの収穫作業をお願いしています。今年9月からは週に5日、1回4~5人のチームで作業に来ていただいています。ハウスが多く自分たちだけでは収穫が追いつかないところをカバーしてもらっていますので、今では農園にとってなくてはならない存在となっています。

(お話し/徳永 真彦さん、綾香さんご夫妻)



収穫できるサイズの“定規”を当てながら2人1組で作業します



とても丁寧な作業で安心 徳永さんご夫婦

助かってます!
農福連携事例2

お互いに楽しく作業できています!